

ラダーレベル	到達目標	研修の概要	研修対象者	レベル認定必須研修(院内) 教育委員会	キャリアサポート研修	役割を担う看護師研修
レベルⅠ	看護実践に必要な基本的能力を習得する	・組織の一員として行動できるための研修 ・患者・家族へ支援する姿勢を養う研修 ・基本的な看護実践を安全に実施できるための研修	レベルⅠを目指す者	採用時研修すべて レベルⅠで計画されている研修すべて 静脈注射研修 看護技術チェック(OJT)		
レベルⅡ	①根拠に基づいた看護を実践する ②後輩と共に学習する	・メンバーとして役割が果たせるための研修 ・患者・家族を理解して支援できるための研修 ・所属部署において根拠に基づいた看護実践ができるための研修 ・後輩指導に関心が持てる研修	レベルⅠ認定者・それ相当の者 レベルⅡを目指す者	レベルⅡで計画されている研修すべて		新プリセプター研修
レベルⅢ	①個性を重視した看護を実践する。 ②看護実践者として、後輩に指導的役割を果たせる	・チームリーダーとして責任を持った行動ができるための研修 ・倫理的視点を持ち患者、家族へ意思決定支援ができるための研修 ・個性を重視した看護実践ができるための研修 ・後輩に関心が持て支援していくための研修	レベルⅡ認定者・それ相当の者 レベルⅢを目指す者	レベルⅢで計画されている研修すべて 「看護研究研修」は概要は必須とし、基礎編・質と量の研究は必須とはしない	★旭川大学、厚生病院他実習指導者研修会 ★看護協会、その他主催認知症看護研修会 ★院内特別講演会(病院、臨床研究部、管理課、企画課、看護部等主催) ★★急変対応研修(ICLS) ◎認知症看護研修 ◎各分野で活躍する看護師の活動を知る研修	新メンター研修
レベルⅣ	①後輩の学習を支援する ②チームリーダーとしての役割がとれる	・看護チームの一員として役割遂行ができるための研修 ・倫理的視点に基づき、看護実践ができる研修(役割モデルを目指す) ・専門的・高度な看護が提供できるための研修 ・後輩・学生の指導を通して教育的関わりができるための研修 ・看護研究に対する関心が持てる研修	レベルⅢ認定者・それ相当の者 レベルⅣを目指す者	レベルⅣで計画されている研修すべて 「看護を語る研修」はレベルⅣ・Ⅴのどちらかでの受講でよい 「看護研究研修」の概要・基礎編の受講を必須とするが、質と量の研修は必須とはしない	★旭川大学、厚生病院他実習指導者研修会 ★看護協会、その他主催認知症看護研修会 ★院内特別講演会(病院企画、臨床研究部、管理課、看護部等主催)の研修会 ★学会参加 ★★急変対応研修(ICLS) ◎認知症看護研修 ◎各分野で活躍する看護師の活動を知る研修	
レベルⅤ	専門性の発揮、管理・教育的役割モデルとなり、研究的に取り組む	・管理・教育的役割ができるための研修 ・より専門性を発揮した看護実践ができるための研修 ・看護職員へ教育的関わりができるための研修 ・看護研究に取り組むための研修	レベルⅣ認定者・それ相当の者 レベルⅤを目指す者	レベルⅤで計画されている研修すべて 「看護を語る研修」はレベルⅣ・Ⅴのどちらかでの受講でよい 「看護研究研修」では、質と量の研修も必須とする。	◇学会参加 ◇学会発表 ★★急変対応研修(ICLS) ◎認知症看護研修 ◎各分野で活躍する看護師の活動を知る研修	

※研修内容については研修計画を参照

注1: レベルⅡにおいて、新プリセプター研修を受講できなかった者は、講義の資料に目を通し、受講した者から伝達してもらうことで、1年待たずに申請できることとする。

注2: レベルⅢにおいて、新メンター研修を受講できなかった者は、講義の資料に目を通し、受講した者から伝達してもらうことで、1年待たずに申請できることとする。

レベルⅢにおいて、キャリアサポート研修の◎「各分野で活躍する看護師の活動を知る研修」で4講義以上の受講が必要、レベルⅣでは10講義以上を受講していることが必要、レベルⅤはすべて受講必須  
レベルⅢ、Ⅳにおいては★印のうち2つは必須とする。(院内外構わず2つ以上とする)

★★急変時対応研修(ICLS)、◎認知症看護研修においては、レベルⅢで受講することが望ましいが、レベル認定を受ける必須条件とはしない。ただしレベルⅣ・Ⅴの認定をうけるときには必須とする。

レベルⅤにおいてのキャリアサポート研修(◇)の1つは必須とする。※学会・院外研修・講習会 はWEB参加を可とする。